

# 令和元年度 学校評価アンケート分析結果

宮城県登米総合産業高等学校

## 1 調査対象

- ・生徒（回収率 96.2%） ※前年度(99.3%)
- ・保護者（回収率 69.5%） ※前年度(82.7%)
- ・教職員（回収率 100%） ※前年度(100%)

## 2 調査期間

- ・令和元年 11月15日～29日

## 3 調査内容

(1) 授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている	(学習指導)
(2) 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている	(生徒指導)
(3) 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	(進路指導)
(4) 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	(教育相談)
(5) 部活動が活発に行われている	(部活動)
(6) 生徒会活動が活発に行われている	(生徒会活動)
(7) 有意義な学校行事がある	(学校行事)
(8) 地域の人と関わる機会を多く取り入れている	(特色ある学校づくり①)
(9) 専門性を生かすなど特色ある学校づくりに取り組んでいる	(特色ある学校づくり②)
(10) 災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている	(防災教育)
(11) 配布物などによって、学校の情報が適切に伝えられている	(開かれた学校づくり)
(12) 校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されている	(施設設備)
(13) 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる	(いじめ問題)
(14) 環境美化に取り組んでいる	(環境美化)
(15) 学校生活は充実している	(総合満足度)

## 4 調査方法

- ・質問紙法

- ・項目別で「当てはまる」と「大体当てはまる」と回答した割合の合計（以下「肯定的評価」という）が高いのは、生徒は「特色ある学校づくり②」,「特色ある学校づくり①」,「進路指導」,「部活動」と続き、保護者は「開かれた学校づくり」,「特色ある学校づくり②」,「施設設備」,「特色ある学校づくり①」と続く。（下記参照）
- ・生徒の肯定的評価のうち、「特色ある学校づくり②」が前年より4.3ポイント上回った。
- ・保護者の肯定的評価のうち、「いじめ問題」が前年より6.5ポイント上回った。
- ・「総合満足度」は、生徒で昨年度より約0.6ポイント上回り、保護者の肯定的評価は、昨年度より3.5ポイント上回った。
- ・生徒、保護者、教職員それぞれの観点の違いから、肯定的評価が20ポイント以上乖離した項目は「教育相談」・「いじめ問題」で、それぞれ教員の評価に比べ保護者の評価が20.2, 25.9ポイント下回った。「いじめ問題」では生徒との比較においても23.4ポイント下回った。
- ・肯定的評価が最も低かったのは、「いじめ問題」で、保護者の68.8ポイントであった。

《調査内容について前年度結果との比較増減》(%)

		【生徒】		【保護者】		【教職員】	
調査項目		肯定的評価	比較増減	肯定的評価	比較増減	肯定的評価	比較増減
1	学習指導	78.1	2.4	88.2	2.1	94.7	▲0.2
2	生徒指導	84.1	1.3	83.8	3.5	94.7	3.7
3	進路指導	86.0	▲1.9	85.9	▲1.1	93.4	▲0.2
4	教育相談	82.4	0.0	77.2	▲2.9	97.4	1.2
5	部活動	86.0	3.1	83.2	2.9	85.5	▲0.4
6	生徒会活動	77.9	0.1	79.8	▲0.1	85.5	▲1.7
7	学校行事	77.9	3.1	86.6	3.4	94.7	1.1
8	特色ある学校づくり①	88.5	0.7	92.4	4.0	96.1	▲0.1
9	特色ある学校づくり②	91.5	4.3	94.0	0.6	97.4	2.5
10	防災教育	84.5	0.3	80.1	3.9	88.2	▲6.7
11	開かれた学校づくり	83.6	▲0.3	94.5	6.3	93.4	▲6.6
12	施設設備	83.9	3.0	94.0	2.5	82.9	▲8.1
13	いじめ問題	71.3	0.8	68.8	6.5	94.7	▲2.7
14	環境美化	73.0	3.7	87.7	1.4	86.8	▲2.9
15	総合満足度	78.1	0.6	87.4	3.5	—	

## 1. 授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている（学習指導）

「授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている。」  
 <分析>  
 H27～R1の評価結果推移及び昨年度との学年毎評価結果の比較をもとに分析を行った。

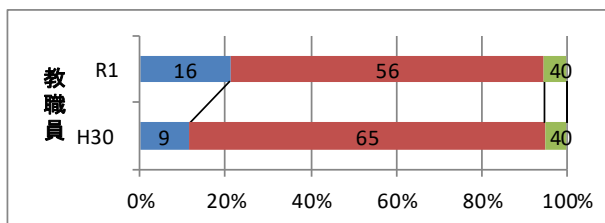
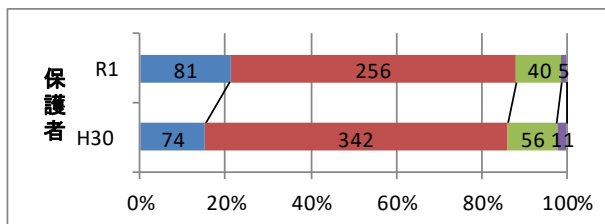
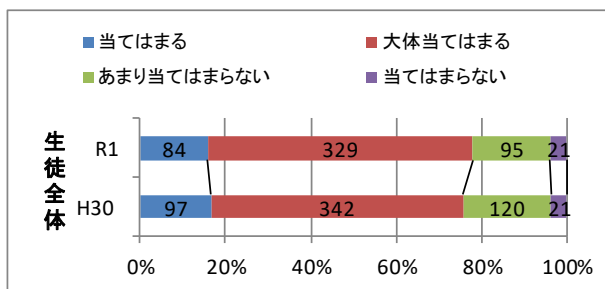
【生徒】  
 ・肯定的意見（「当てはまる」「大体当てはまる」）の数は開校5年の中で最も高く、昨年度と比較して2.4ポイント上昇した。8割台が見えてきた。

【保護者】  
 ・肯定的意見の数は開校5年の中で最も高く、昨年度と比較して2.1ポイント上昇した。「当てはまる」の回答は5ポイント上昇した。

【教職員】  
 ・肯定的意見が昨年度より0.2ポイント下がりが94.7%となった。「当てはまる」の回答が9.6ポイント上昇した。H28の肯定的意見が70.1%だったことを考えると、ここ数年、授業の中で手ごたえを感じる機会が増えたのだろうと感じている。

【学年ごとの評価】  
 ・1, 2年生で8割台を保っており、2年生は昨年度より13ポイント上昇した。一方で3年生は昨年度より5.9ポイント下がった。現3年生は、開校3年目の不安定な時期に入学した生徒であり、何かしらの不満等を抱いたままの生徒も多いように感じる。

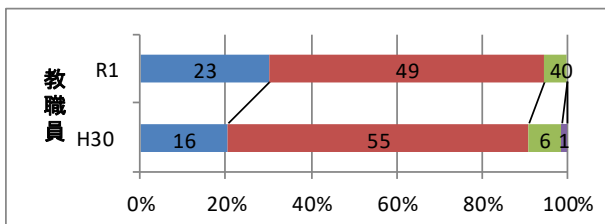
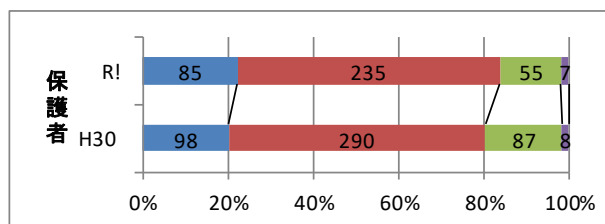
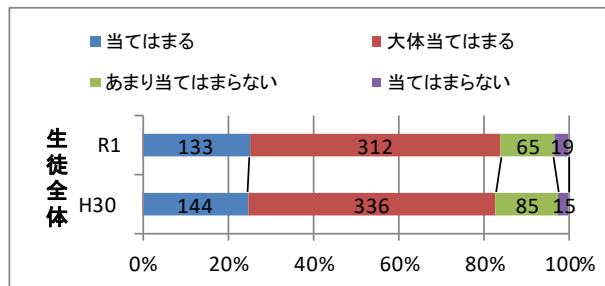
<改善に向けた取り組み>  
 落ち着いたある学校生活を目指し、「授業スタンダード」の作成など様々に取り組んできた。学習指導における肯定的意見の向上は非常にうれしい結果だと感じている。学校として生徒の理解が進み、各教科が生徒の学力や性格、理解の状況等に応じた工夫を行ったことで、学ぶ意欲を引き出す指導や支援が行われたことが向上の要因だと考えている。しかしながら、授業が分かる割合やみやぎ学力状況調査結果、家庭学習時間における本校が定める数値目標は今年も達成できなかった。いかに生徒を授業に引きつけ、これを家庭学習までつなげるか、どうやって学力に関する客観的な指標で結果を出すところまで持っていくか、次年度以降も重要な課題として考えていく。



## 2. 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）

<分析>  
 肯定的回答が生徒・保護者において80%を超え、昨年度との比較においても生徒では1.3%、保護者においては、3.5%の増加となった。登米総STD確立に向けた取組において、「愛」スローガンを掲げた取組や、図書部の全面的協力を得ての遅刻指導、4月からの生徒指導部による朝の立ち番指導やこれまでの学年での指導に加え、学科からの協力もあって効果が現れてきた。また、学校メール配信による連絡や、校長室便りにおいて学校の取り組みの紹介や生徒の活躍等の情報発信も一助となった。さらに、教職員において肯定的回答が90%を超え、昨年度より3.7%増加している。特に「当てはまる」の回答数が昨年と比較して約1.5倍となっている。昨年度末に各先生方からアンケートをとり、先生方が指導しやすい内規に変更したことも影響しているものと考えられる。

<改善に向けた取り組み>  
 登米総STD確立に向け、朝の昇降口指導を軸として、教育活動の様々な場面において地道に全職員で取り組む必要がある。生活習慣の確立に向け、生徒が見通しを持ちながら行動できる支援が必要である。



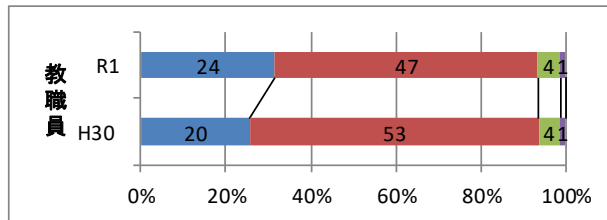
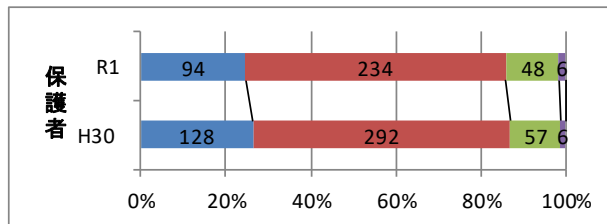
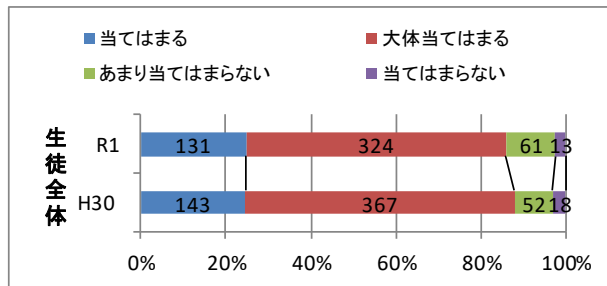
### 3. 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）

#### <分析>

「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」という質問に対し、肯定的評価「当てはまる」「大体当てはまる」と回答した割合が、生徒86.0%、保護者85.9%、教職員93.4%となっており、本校の進路指導に対して概ね評価いただいていると考える。これは、各部、各学科、各学年、各教科等での学習活動および常に進路を意識した指導を継続して行っていることや各種進路行事の実施が、生徒の進路目標の明確化につながっていると考え。また、生徒、保護者に対しては各種進路行事実施概要の学校ホームページへの掲載や「進路NEWS」の発行および3年生の保護者に対しては「進路保護者説明会」を開催しており、生徒、保護者の本校の進路活動に対する共通理解、進路指導の協力を得る一因にもなっていると考える。

#### <改善に向けた取り組み>

各学年の進路担当に進学担当、就職担当を決め、進路行事の実施内容についての連絡調整を密に行い、実施内容に反映できるように努めていく。そして、進学指導、就職指導について適切な指導が行えるように、生徒、保護者、教職員が、さらに共通理解を図り、生徒の立場に立った進路達成までの進路指導計画の構築、体制を整え進めて行く。また、各部、各学科、各学年、各教科と連携を図り、生徒の進路選択までの過程、または進路達成までの適切な指導体制や流れになるように改善していく。これからも、生徒、保護者に積極的に進路指導室の解放、活用を進め、さらに進路情報の発信に努めていきたい。



### 4. 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）

#### <分析>

平成28年度から令和元年度までの4年間で肯定的意見の割合は以下のような推移であった。

生徒 70.2→79.8→82.4%→82.4%

保護者 73.3→71.6→80.1%→77.2%

教職員 96.1→97.4→96.2%→97.3%

生徒の評価は昨年と同じ8割強、教職員は1.1ポイントアップした。一方で保護者が8割を下回った。内訳では、保護者の「だいたい当てはまる」の回答が昨年より7ポイント減、教職員の「当てはまる」という回答が昨年より16ポイント増という点が目立った。

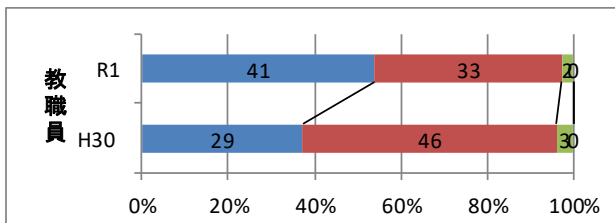
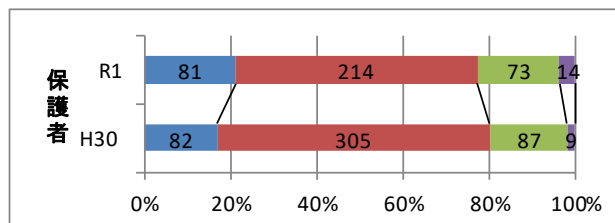
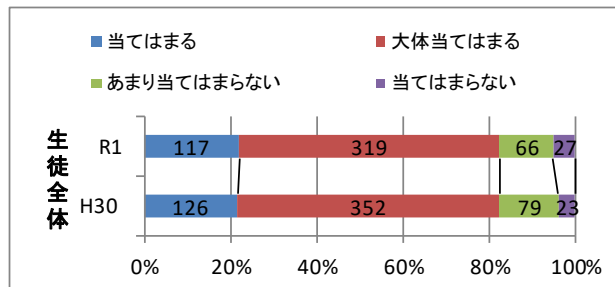
昨年度の反省を生かし、先生方へはケース会議設定までの目安となるフローチャートを作成して提示、また、校内にSCの紹介を掲示するなど改善した。生徒・教職員の評価が下がっていないことから、必要な相談体制はあるものの、対応に満足していない保護者が増えていることが懸念される。

普段から担任の先生方始め周囲の教職員が常に生徒に目を向け、些細なことも情報交換し合って素早く対応し、必要に応じてカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなげてきた。担任の先生方はカウンセリング後の情報交換にも積極的に参加していただき、平日頃の声掛けや見守りに生かしていただいた結果、カウンセリング利用者の満足度は高かった。今後は、最前線で生徒や保護者と関わる先生方を支える学校内の体制を整えていきたい。

#### <改善に向けた取り組み>

先生方には平日頃から生徒をよく見て必要な支援や声掛けをしていただいている。担任が見えにくい場面での生徒の活躍を教科担当や部活動顧問から担任へ伝え、生徒を褒める良い循環を作る工夫をしたい。

また、保護者への対応や電話連絡での注意点やポイントなど、最前線で対応する先生方の指針となるような研修会を実施し、話を聞く技術や、相談を受ける時の対応について学ぶ機会を作る。



## 5. 部活動が活発に行われている（部活動）

### <分析>

肯定的回答が生徒で3.1%、保護者2.9%増加したが、教職員においては0.4%の減少となった。

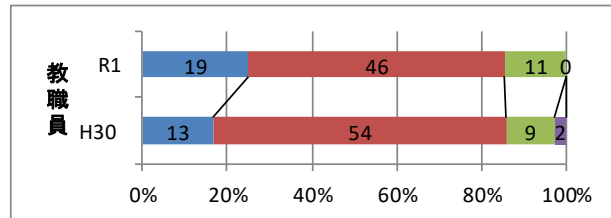
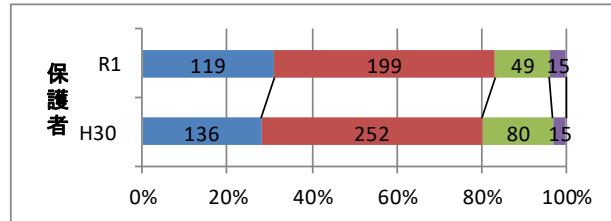
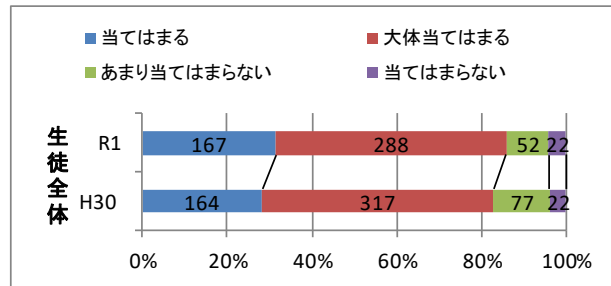
運動部・文化部とも活発に活動し、運動部ではアーチェリー部の全国・東北大会出場、空手道部の東北大会出場等、各種大会で上位入賞を果たした。

文化部においても吹奏楽部や機械工作部の全国大会出場等、活躍が目覚ましかった。

教職員のポイントの減少はまだまだ頑張りたいと思う気持ちの表れではないか。

### <改善に向けた取り組み>

次年度も部活動への積極的参加を呼びかけ加入率100%と各部の上位での活躍を目指し、部活動数・部費の割り振りなどを検討する。年度初めには部活動紹介を充実させ、部活動登録まで生徒会からの呼びかけや部員等による勧誘活動を実施する。



## 6. 生徒会活動が活発に行われている（生徒会活動）

### <分析>

肯定的回答が生徒で0.1%増加したが、保護者0.1%、教職員1.7%減少した。ボランティア活動やマナーアップ活動など何度か街頭に出て活動してきたが、保護者や教職員からみて自主的な活動と観れなかったのではないかと

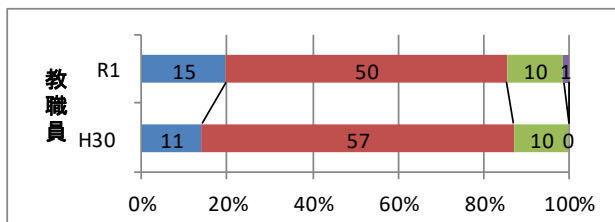
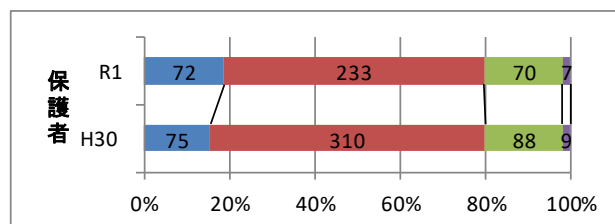
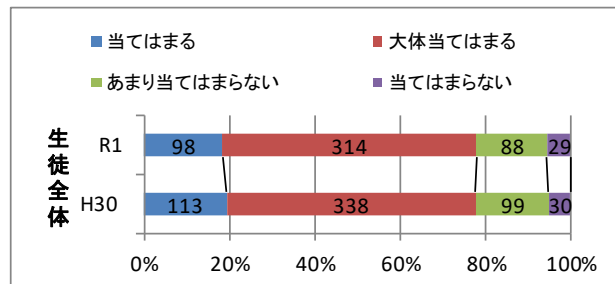
### <改善に向けた取り組み>

(生徒会活動)

登米総STD確立に向けた具体的取組の計画のために、前期生徒総会において、各クラス検討する

(具体例)

生徒会、クラス代議員によるスローガン作成スローガン実現のための具体的取組の検討具体的取組を各種委員会において実行、既存の行事を活用し、PTAと連携した活動の実施。



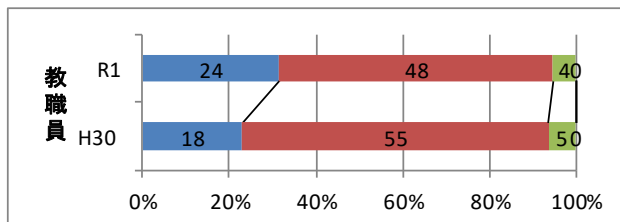
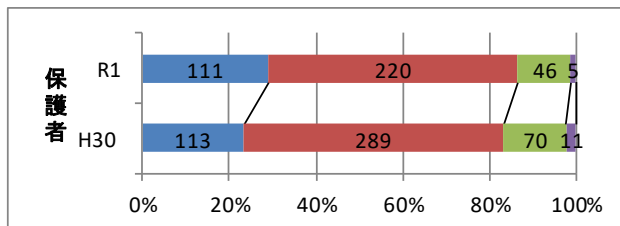
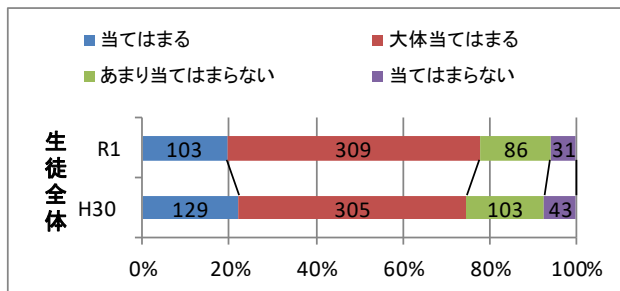
## 7. 有意義な学校行事がある（学校行事）

### <分析>

肯定的回答が生徒3.1%、保護者3.4%、教職員1.1%と3者において増加となった。ただし、生徒の肯定的回答が生徒会活動とともに80%を下回る割合となった。

### <改善に向けた取り組み>

生徒自ら主体的に活動できる環境作りのためにLHRを計画的に実行する。



## 8. 地域の人とかかわる機会を多く取り入れている（特色ある学校づくり①）

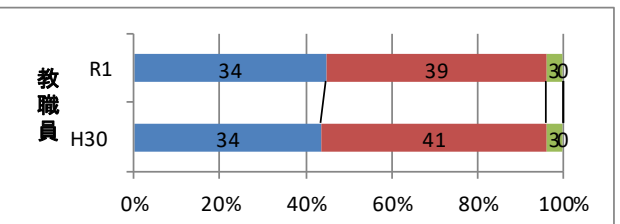
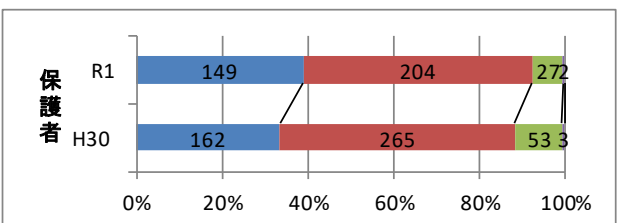
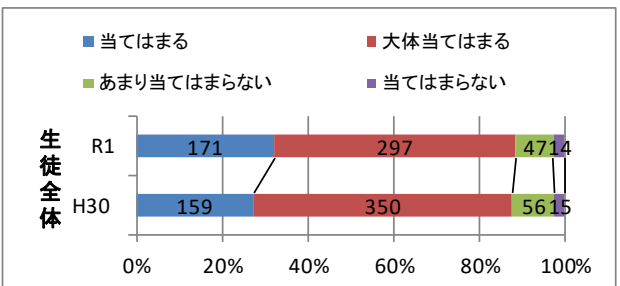
### <分析>

生徒・保護者とも昨年度に比べて肯定的な意見の割合が上昇した。1学年「産業基礎」、2学年「インターンシップ」、3学年「起業実践」で地域の方々と関わったためと思われる。また、各学科の専門性を深めるための外部指導者の活用も要因と考えられる。

生徒・保護者・職員とも肯定的な意見の割合が80%後半から90%後半になっており、意見の乖離は見受けられず、本校の教育活動が浸透してきていると思われる。

### <改善に向けた取り組み>

今年度と同様に取り組む。



## 9. 専門性を生かすなど特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり②）

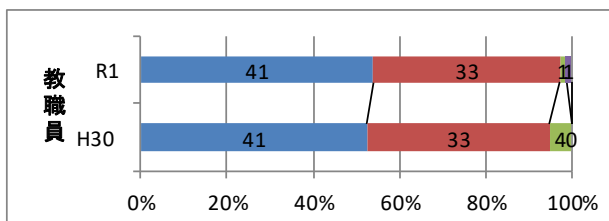
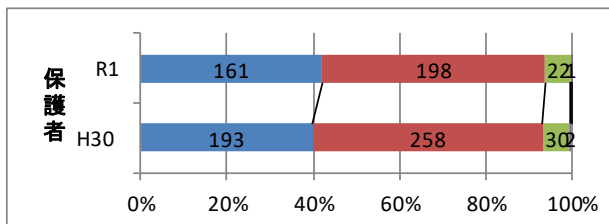
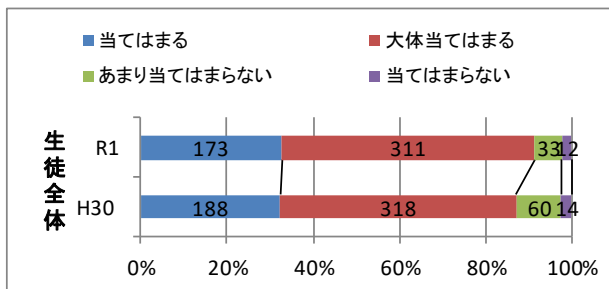
### <分析>

生徒全体では昨年度に比べて肯定的な意見の割合は4ポイント上昇し、91.5%であった。保護者については肯定的な意見の割合が0.6ポイント上昇し、94.0%と高い割合であった。職員については肯定的な意見の割合は、昨年度に比べて上昇している。

生徒、保護者、教職員とも肯定的な意見の割合は91.5%から97.4%になっており、意見の乖離は見受けられない。

### <改善に向けた取り組み>

今年度同様取り組んでいく。



## 10. 災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている（防災教育）

### <分析>

[前年度との比較から]

肯定的回答について

(生徒全体) ほぼ横ばい。

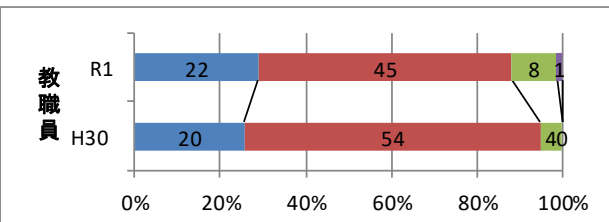
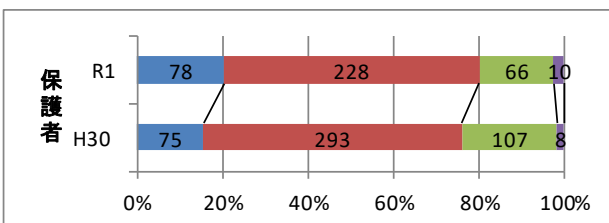
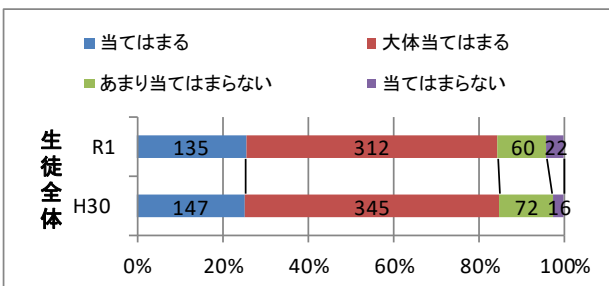
(保護者) 増加傾向。

一斉メール配信がスムーズに行われた事が要因と考えられる。

### <改善に向けた取り組み>

・生徒・保護者に向けて、携帯出来るH31年度版「防災ハンドブック」を配布したが、十分な周知徹底が必要であると考えられる。

・昨今の災害対応を取り巻く状況から、災害対応部署の位置づけを根本的に直す必要がある。  
防災担当主幹など、より機動力のある組織のあり方を考える時機に来ている。



## 1.1. 配布物などによって、学校の情報が適切に伝えられている（開かれた学校づくり）

### <分析>

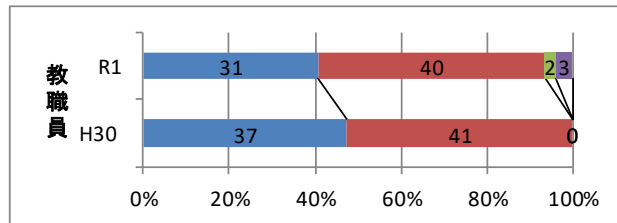
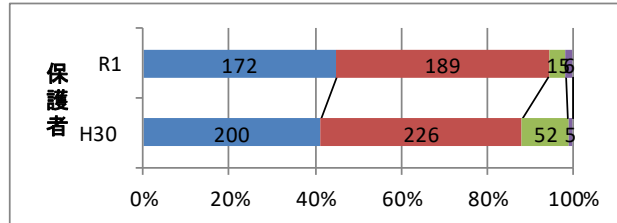
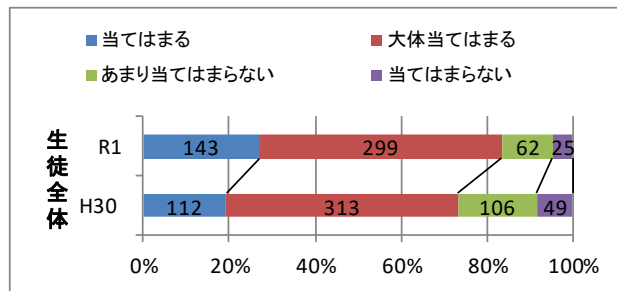
肯定的回答は生徒が83.6%でほぼ昨年同様であったが、保護者においては94.5%と6.3ポイント増の高評価となった。教職員では前年度が100%だったので、6.6ポイント減となるが、93.4%という高評価である。「学校だより」や「校長だより」の発行、生徒・保護者へのメール配信に加えて、学校HPやブログの更新も恒常的に行われるようになって、保護者の元に情報が行き届くようになってきたと言える。また学年ごとに見ると、1年生：91%、2年生87%、3年生74.9%と格差がある。1・2年時にはクラス通信などの学校生活全般の情報が中心だったものが、3年次になって就職や進学の情報が中心になっていくことも評価が高まらない要因であるかもしれない。紙媒体の情報が届かないという声が保護者から聞かれることもあり、情報発信の際の丁寧な声掛けを工夫したい。

### <改善に向けた取り組み>

結果を見れば、情報量としては十分なレベルに達してきたと思われる。これからは必要な情報がすばやくタイムリーに生徒や保護者のもとに届けられるように、情報の発信方法や時期を見直したい。メール・ホームページ・情報紙といった媒体を適切に使い分けが必要になる。特に配布したプリントの扱い方について、さらに指導していきたい。一斉メール配信システムの登録率は全体で4.2ポイント下降した。これは1学年の登録率が75.2%（2年92.0%、3年95.9%）と例年に比べてかなり低いことが原因であると思われる。さらに登録を促すよう再度働きかけを検討したい。

### <一斉メール配信システムの登録率>

	R1年度	H30年度	H29年度	H28年度	H27年度
生徒のみ	56.4%	91.5%	88.0%	63.8%	44.0%
保護者のみ	81.4%	87.3%	78.4%	70.5%	51.7%
生徒保護者いずれか	87.3%	91.5%	88.0%		



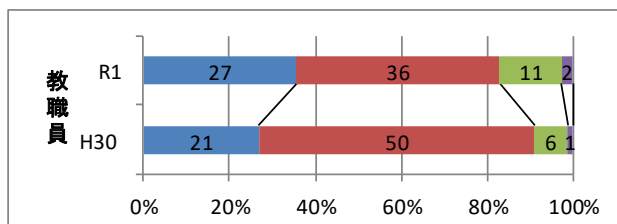
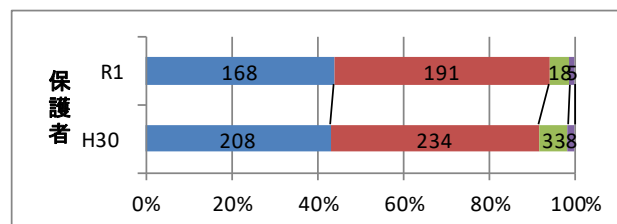
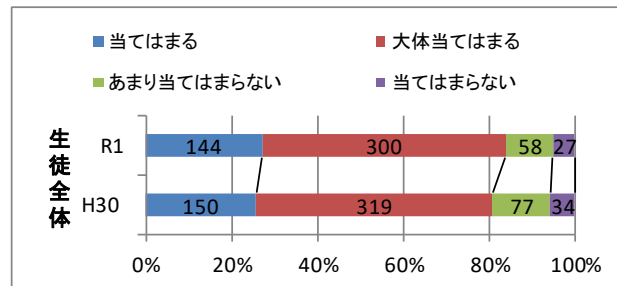
## 1.2. 校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されている（施設設備）

### <分析>

- 「当てはまる」、「大体当てはまる」が保護者90%を超え、生徒・教職員においては80%を超えてあり、部活動に関する施設の要望があるものと思われる。
- 校舎等の施設設備については、予想していたとおり使用していくうえでの要望等がでて来ている。

### <改善に向けた取り組み>

グラウンド関係の整備については、今後も主務課や関係機関と協議しながら計画的に要求をしていく。雨漏り等については、業者に依頼しているところであるが対応が遅れている。その他のハード面については、関係分掌等と協議し校内での工夫が必要と考える。





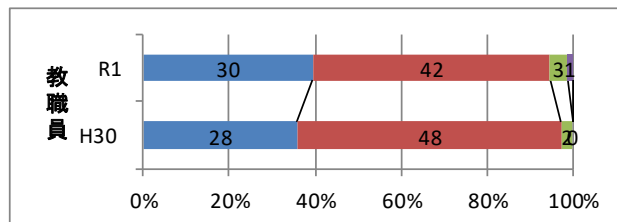
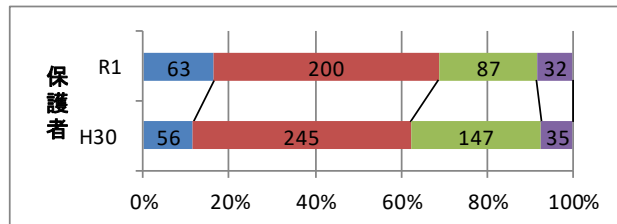
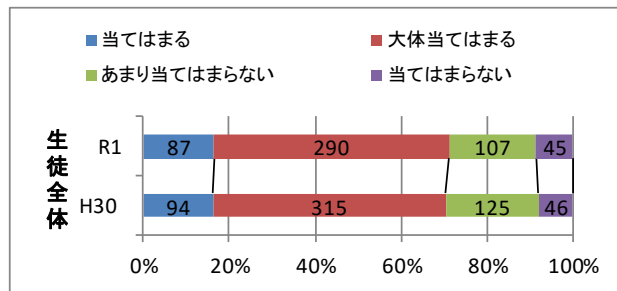
### 1.3. 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる（いじめ問題）

#### <分析>

肯定的回答が生徒0.8%、保護者においては6.5%と大きく増加したが、教職員においては2.7%の減少となった。組織としての体制整備が少しずつ進んでいる結果だと考える。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用が昨年度と比較して活発なっていることが未然防止や早期発見につながっていると考えられる。しかし、保護者の肯定的回答が60%台であることは率直に受け止めなければならない。

#### <改善に向けた取り組み>

いじめは早期発見・早期対応が基本である。常に我々教職員がアンテナの感度を良くしながら積極的生徒指導に徹していくことが重要である。また、毎月行っているアンケート調査を活用し生徒が訴えやすい環境作りに力を入れたい。



### 1.4. 環境美化に取り組んでいる（環境美化）

#### <分析>

平成28～令和元年度の4年間で肯定的意見の割合は以下のような推移であった。

生徒 52.3→66.1→69.3%→72.9%

保護者 75.0→79.5→86.3%→87.7%

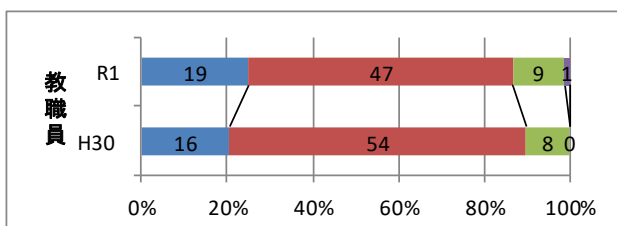
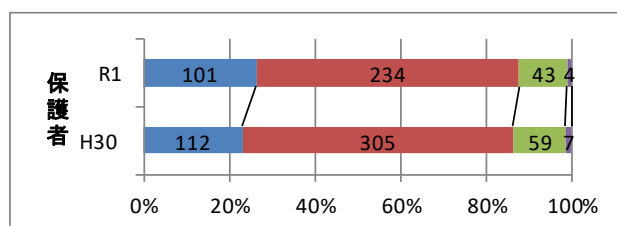
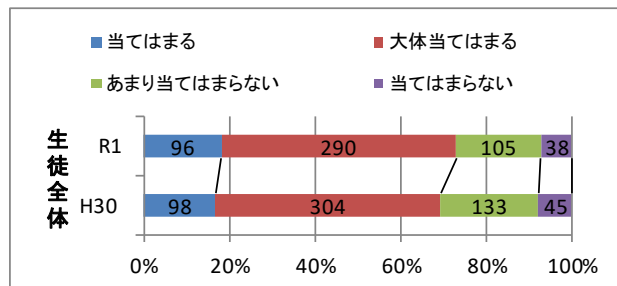
教職員 49.3→91.0→89.7%→86.8%

初めて生徒からの評価が7割を超え大変嬉しく思う。また、保護者の肯定的評価が更に上がり8割強を維持できた。先生方の評価が微減してはいるが、「もっときれいに清掃できる」という肯定的な厳しさと受けとることができる。校舎自体は古くなりつつあるのに対し、環境が清潔に保たれているのは、先生方のご指導と生徒の清掃等、日々の努力によるものと感謝申し上げたい。

自由記述で保護者より階段・トイレの汚れを指摘されているが、清掃・環境美化に取り組む生徒・教職員の意識は向上し続けていることが窺える。今後は、トイレ・手洗い場をきれいに使用するよう呼びかけ、校舎をきれいな状態に維持していくために生活面や公共意識の向上に力を入れていきたい。

#### <改善に向けた取り組み>

- ・廊下・階段の清掃用具の充実を図る。
- ・清掃の仕方や生徒への仕事割当を提示し、全生徒が清掃に取り組むよう働きかける。
- ・保健委員の生徒による清掃点検を定期的に行い、啓蒙ポスター掲示をする。



## 15. 学校生活は充実している（総合満足度）

### <分析>

肯定的評価は生徒が78.1% (0.6ポイント増)と高水準を保ち、保護者が87.4%と前年度から3.5ポイント上昇した。部活動や学校行事の項目において、保護者の評価が上がっていることと相関が見られる。これまでの高評価を引き続き継続しており、「魅力人気ナンバーワンの登米総！」を合言葉に「登米総スタンダード」を掲げた生徒職員の取組が、少しずつ保護者にも理解されてきたものと考えられる。

### <改善に向けた取り組み>

生徒の評価を詳しく見てみると、男女別の格差(男子83.5%:女子68.4%)が15.1ポイント、学年別の格差(1年86%:2年80%:3年69.5%)が16.5ポイントとなっている。学年が上がるにつれて、女子の評価が下がる傾向が見られる。学習や部活動で明確な目標を持って取り組んでいる生徒ほど、より学校生活に対する充実感を持てると思われる。年度初めの目標設定はもちろん、学習や部活動に対する生徒一人一人の意欲の変化に対して、関係職員間で情報を共有して丁寧に対応するなど、生徒がさらに充実した高校生活を送ることができる環境を提供できるよう努力していきたい。

